

兵庫県立須磨友が丘高等学校
39回生 学年通信 第7号

道

2021年9月1日(水)発行

題字 飛田真人先生

【2学期が始まりました】



残暑が厳しいですが、いよいよ2学期のスタートです。夏休み中は規則正しい生活が送れていたでしょうか。明日は課題考査があり、その後も通常授業が6限目まであります。そろそろ気持ちを「夏休みモード」から「学校モード」に切り替え、暑さに負けず取り組んで欲しいと思います。

【学年団よりメッセージ その3】



飛田 真人(1年次主任 国語)

みなさん、夏休みはどのように過ごしましたか。遠くへ出かけるのが難しい中、テレビやスマホでオリンピック観戦を楽しんだという人もいます。僕も日本がメダルを獲得すれば喜び、善戦むなしく敗退した選手には健闘を称える拍手をおくっていた一人です。プレーに魅了されたのはもちろんですが、試合後のインタビューに応じる選手たちの言葉にも感じ入りました。ほとんどの選手が「感謝」という言葉を口にしていました。周りの人たちのサポートがあってこそ今の自分。感謝の気持ちを忘れず、それをきちんと言葉で伝える。さすが、一流のアスリートは違います。

その一方では SNS 上で、選手たちに心無い言葉を浴びせたり、誹謗中傷したりという悪質な書き込みが多数見られるというニュースもありました。ああまたか、という思いです。去年、女子プロレスラーの木村花さんが亡くなった事件をもう忘れたのでしょうか。世の中にはある程度、言葉の使い方が分からないかわいそうな人がいるようです、残念ながら。

言葉には力(パワー)があります。ある人の一言で元気が出た、幸せな気分になった、救われた等という経験をした人も多いでしょう。逆に、言葉は人を傷つけ、最悪の場合は人を殺すこともできる諸刃の剣でもあります。

どうかみなさんは、良い言葉の使い手になってください。良い言葉を人にも自分にもかけてあげてください。そして、悪い言葉は人にも自分にも使わないようにしてください。必ず巡り巡って自分に返ってきます。(ちなみに仏教では、「悪口^{あっこう}」や「愚痴」は「十悪」の中に含まれるほどの大罪です。不幸を招くことを、お釈迦様は見抜いていらっしゃったのでしよう。)

さしあたり、家族でも友人や恋人でも、あるいは「モノ」でもいいので、日頃の感謝を言葉で伝えてみましょうか。最後まで読んでくれて「ありがとう」。



佐野 美穂(1年次副主任 英語・中国語)

私の父は神戸生まれで、私自身も神戸市垂水区で生まれた。しかし、6歳の頃、父の教育方針で加古川の片田舎に私たち家族は引っ越し、私は多感な時期の多くをそこで過ごした。田畑とブラックバス釣りで有名な広大なため池がいくつか(4~5個)ある地域に忽然と現れた新興住宅地で私は育った。JR 加古川駅から北東に約 7 キロ、家から歩いて数百メートルで加古郡稲美町、車で 10 分ほど走ると神戸市西区岩岡町という境界線のエリアである。私の家は特に住宅地の端、つまり校区の端にあり、学校と反対方向へ歩けば農家の人しか来ないような所で、家の周囲は広大な自然の庭のような状態であった。小学校までは約 2 キロ、子供の足で片道約 40 分、山あり川あり池あり墓場あり牛舎あり何でもありの通学路だった。このような片田舎だったが子供の人口は非常に多く(中学校は 10 組~13 組)、しかもかなり教育熱心な地域で、小学校高学年になると、朝は 6 時 50 分には家を出て合唱部の練習、放課後は近くの公園で少年団のバレーボールの練習、週末は保護者の送り迎えで市の中心部の小学校まで行ってミニバスケットボールと毎日が忙しかった。



この地域では塾に行くという概念はほとんどなかったが、習字、ピアノ、そろばんとお稽古事はさかんで、特にそろばんはクラス全員と言っていいほど、各自で近くのそろばん教室に通っており、珠算検定 1 級に合格する子もいた。子供向けの言語活動を行っている団体支所のような家もあり、子供たちが月に何回か集まって外国語(英語・韓国語・フランス語など)のテープを聞いて歌ったり踊ったり劇をしたりしていて、私も参加していた。

中学に入ると、小学校までの通学路がいきなりマラソンコースとなり、授業でも校外のコースを何度も走らされ、校内のマラソン大会も毎年必ず行われた。坂はいくつかコース内にあったが、その中に「心臓破りの坂」という坂があった。二人ほどしか通れない、木が生い茂るトンネルのような 70 メートルほどの急な坂であったが、ここがきつかった。登りきるとぽっかりと空いた穴から空のある空間へ出てくる感覚である。しかし登りきると目の前には墓がいくつかあって、これはブラックジョークだろうか、と息も絶え絶えで感じたのを覚えている。先日、当時は車で通れなかったその道の近くまで行くと、なんと車の通れる広さになってしまっていた。まあ数十年経っているので当たり前のことなのかもしれないが、思い出の中だけの風景になってしまったな、と残念だった。しかし、何年前か前、母校の中学が駅伝で全国優勝を飾ったとき、ああなるほどまだ伝統は続いているのだな、と感じた。

小・中学校とこんな地域で私は育ったが、数年前に父が亡くなってから、当時両親がどうしてここを選んだのかよく考えるようになった。私は現在、外国語が専門だが、私の知っている限りこの地域には外国人は住んでいなかった。ただ、両親が色んな人達を家に招いていたのが国際交流的だったのかもしれない。色々考えを巡らせると、私の中の広い「世界」はこんな片田舎から始まったのではないだろうか、と思うようになった。自分を取り囲むもの、それを環境と呼ぶが、それ自体がその人の世界を形作っているのではないだろうか。スマートフォンの中には 360 度見渡せる世界はない。自分の周りに世界は存在するのだと私は思う。今は「実家」はそこにはないが、私の「根っこ」は確実にそこにある気がしている。

高校時代はまた今度。でももうこの文章で皆さんお腹一杯ですよ。(笑)



松本 朱季子(1年次副担任 国語)

我が家には3人の子どもがいますが、私の休みの日の楽しみは子ども達と一緒に図書館に行くことです。私自身図書館が好きで、大学生の時にはよく大学図書館で日本の古典文学や漢文を読んでいた記憶があります。同じ古典作品でも、出版社が違くと注釈や解釈が違うのが面白く、いろいろ見比べながら読んでいました。静かな図書館で、昔の本の香りを感じながら、1ページ1ページとめくっていくのが好きでした。

子どもが生まれた今は、自分が好きな本を読む時間は減ってしまいましたが、代わりに子どもが興味のあるような本を選び、読んであげています。小学生の息子は科学やものづくり、娘はお化けや昔ばなし、末っ子は昆虫や恐竜の本が大好きです。興味がそれぞれ違う上に、読みたい本もその時々で変わっていくので、一緒に読んでいると新たな発見や感動がありとても面白いです。みなさんも自分の好きなジャンルに捉われずに、いろいろな本を読んでみてはいかがでしょうか。図書館にはおすすめの本や話題の本、季節や行事にちなんだ本など、様々な本が置いてあります。あっ！と気になる本を手に取り、読んでみて欲しいと思います。世界はそこから広がると思いますよ！



田中 恵理(1年次副担任 国語)

最近のスマートフォンはすごいですね。一日のスマホ使用時間がグラフで表示されるようになっています。この夏休み、みなさんの総スマホ使用時間はどのくらいでしたか。スマホと上手に付き合えていますか。

私が15歳の頃といえば、高校生の半数近くが携帯電話を持ち始めた時期でした。御多分に漏れず、私も親を説得し携帯電話を手に入れたわけですが、当時はありがたいことに(?)、携帯でゲームをすることも、インターネットでサクサク検索することも、もちろん無料通話や無料メールをすることもできず、楽しみと言えば友人とワン切り(死語?)により連絡をとること、それに自作の着メロに凝る程度のことでした。そして、それでも十分携帯電話に夢中になっていました。当時私が今のスペックのスマホを持っていたら、きっと一度はスマホ依存に陥っていたことと思います。

最近、『スマホ脳』(アンデッシュ・ハンセン著/新潮社)という本を読みました。それによれば、スマホやSNSは効果的に脳の報酬システムを刺激し、できるだけ人間を依存させるよう巧妙に開発されているそうです。この衝動に歯止めをかけ報酬を我慢させるのが脳の前頭葉という部分です。そしてその領域が成熟するのは、25歳～30歳だそうです。つまり、若者の方が依存症になるリスクが高いということが記されていました。

「やらなければならないこと」と「やりたいこと」の狭間で、「やらなければならないこと」を選ぶ力を身につけたいものですね。自分を律する訓練をするためには、スマートフォンは魅力的な機器なのかもしれません。



9・10月行事予定

9月

2日(木) 課題考査(英・数・国)
3日(金) 物品業者来校日
7日(火) 教育相談
9日(木) 防災避難訓練(5・6限目)
16日(木) 教育相談
21日(火) 体育祭準備・予行(2限目まで授業)
22日(水) 体育祭
24日(金) 体育祭予備日
28日(火) 教育相談
30日(木) 芸術鑑賞会(2限目まで授業)



10月

1日(金) 創立記念日(生徒休業日)
5日(火) 教育相談
8日(金) 物品業者来校日(今年度最終日)
12日(火) 教育相談
20日(水)～26日(火) 中間考査
26日(火) 教育相談



※予定が変更になるかもしれません。